



みちのく民俗村

初代村長

村民第1号、ガードマン赤鬼さん

どろ亀さん × C.W. ニコルさん 展

懐かしの初代村長とニコルさんの
願いは、森や自然環境への気づき、
好奇心のもととなる「心のタネ」を
まくことでした。

民俗村からこのメッセージを
お届けします。



主催 株式会社展勝地 みちのく民俗村 協力

C.W. ニコル・アフアの森財団 東京大学北海道演習林
富良野市博物館 北上市立博物館

お問合せ **みちのく民俗村** 岩手県北上市立花 14-62-3 0197-72-5067 michinoku.fv@gmail.com



みちのく民俗村
検索

会期 令和5年 10月14日(土)～10月29日(日)
午前9時～午後5時

みちのく民俗村

初代村長 村民第1号、ガードマン赤鬼さん
どろ亀さん × C.W. ニコルさん 展

場所 みちのく民俗村園内
民俗資料館(旧黒沢尻実科女学校)
旧今野家住宅 展勝地茶屋

内容 ■生い立ちや日々の活動などのパネル展示
■どろ亀さん、ニコルさんのDVD上映
■アファンの森グッズの販売



森の世界

森には

何一つ無駄がない

植物も 動物も 微生物も

みんな つらなっている

一生懸命生きています

一種の生きものが

森を支配することの

ないように

神の定めた

調和の世界だ

森には

美もあり 愛もある

はげしい闘いもある

だが

ウソがない

詩集「どろ亀さん」より

無心

原生林の奥の奥

倒れた大樹のその上に

コケとキノコが絵を描いた

小さな小さなキノコたち

白とピンクの服着てた

秋のうす日を背にうけて

川の流れを音楽に

小人の国の舞踏会

●どろ亀さん (1914～2002年)

高橋延清東京大学名誉教授。1938年、東京大学北海道演習林に着任。「森こそが教室」と現場主義を貫いた。豊かな森づくりをめざした「林分施業法」(HPから無料でダウンロード可)は現在も継続中で、6つの原則から成り立っている。

定年退官後は全国各地で森づくりの指導に努め、広く一般に森の心を伝えつつ、植・育樹活動や自然環境保全への啓蒙を続けた。日本学士院エジンバラ公賞、みどりの文化賞をはじめ受賞多数。著書は「詩集どろ亀さん」「樹海」など。

●C.W.ニコルさん (1940～2020年)

作家、自然保護活動家、探検家。1962年に初来日。宮沢賢治の童話の英訳をきっかけに岩手県に親しんだ。1986年から長野県で放置されていた森林の再生活動に取り組み、「アファンの森」と名付けたその面積は今なお広がっている。

2002年、私財を投じ(一財)C.W.ニコル・アファンの森財団を設立。東日本大震災後は子どもたちの心のケアに注力、東松島市の木造校舎建設にも尽力した。名誉大英勲章をはじめ受賞多数。著書は「勇魚」「風を見た少年」など。

どろ亀さんとニコルさんについての詳細はホームページで!

どろ亀さんオフィシャル | <https://dorogamesan.com/>

C.W.ニコル・アファンの森財団 | <https://afan.or.jp/>